

読初めのハナハトマメのなつかしく 氏家頼一

中七で年齢が分かる。ちなみに私はヘイタイスメでした。
これは人生の読み初めですが、作者の元気な声が聞こえてきます。

寒晴やスカイツリーに恐れ入る 高橋マキ子

「恐れ入る」がぴったり。先日、浅草に行き東京の空に
ドウダと聳えていました。五重塔が畏れっていました。

初日の出西方浄土に現れぬ 黒田忠一

一年が過ぎるたびに西方浄土が近づいてきます。
寂しくなりますが、あからさまに言われると愉快になります。
極楽に行けるように。

一人居の鏡と我の初笑 有吉堅二

にんまりと笑った最高の笑顔、こちらまで笑顔になる。
人生明るく生きましよう、笑わなくなったら終わりです。

初日の出拝んでからの二度寝かな 有吉堅二

お日様も呆れかえっています。でも二度寝って至福の時。
お日様かんべんしてください。

お年玉子どもつかえず親うれし 佐藤義子

将来のために貯金しておきますよと言っては使ってしまった。
これは我が家のこと。その内、子供も騙されなくなりました。
人間て、ちょっと悪いこととしては笑いとばす不完全同士だから
滑稽も生まれる。